

【てふり】

作・藤田ヒロシ

○キャスト

私……………

先生……………

友人……………

私 黒板に数式が書かれている。その前でチョークを持って立っている私。
1974年・昭和49年8月30日午後0時45分、東京都千代田区丸の内で時限式爆弾が炸裂した。東アジア反日武装戦線「狼」による『三菱重工爆破事件』だ。その約3時間後、214キロ離れた静岡県引佐郡細江町気賀で私が生まれた。

私 最初の合図は29日の午後9時30分。素直に生まれていたら誕生は日付を越えなかったかも知れないが、何を思ったか母の中から出るのにそこから18時間もかかった。まるで決行日を二転三転させた「狼」の迷走ぶりの様で……と、言うのは流石に強引だ。彼らは最初に定めた9月1日が日曜日だったから平日に変えたに過ぎないし、私は何かを選べる立場になかった。死者8人、負傷376人を出したテロ事件と3060グラムの赤子の誕生。この二つの出来事に繋がりはない。飽きる程に繰り返されて来たありふれた景色の一つだ。

と、チョークを手放し、体温計を手にし体温を測り始める。

私 ん？いや「二つ」か……まあ、どちらにしろ私の人生もありふれた景色に溢れ、改めて話をした所で、皆さんにとつてもありふれた景色の一つでしかない事でしょう。でも、まあ、でもいいじゃないですか。今日は8月30日。嗚呼、皆さんも一度はあるのではないですか？自分と同じ誕生日の有名人は誰か？と調べてみた事が。

今日はキャメロン・ディアスの誕生日。キャメロン・ディアスと聞いて思い出すのは……「チャーリーズエンジェル」？それとも「マスク」？「メリーに首つたけ」？私は……「メリーに首つたけ」は観てないんです。

今日は井上陽水の誕生日。井上陽水と聞いて思い出すのは……「少年時代」？「夢の中へ」？「傘がない」？「最後のニュース」？「帰れない二人」？「リバーサイドホテル」？「皆さんお元気ですか？」あ、これは歌ではないですね。本当に多くの曲が思い出されますが、私はこれ。東京での初舞台、その劇中でこの歌の歌詞の解釈を話すくだりがあった……。

と、ギターを手にして「東へ西へ」を弾き始める。

私 ♪昼寝をすれば夜中に眠れないのはどういうわけだ？

と、歌い出すと体温計が鳴る。

私

(体温を確認して) 6度3分。

ふと、体温計を右脇に挟んでいた事を気に留める。左脇に挟んでみる。

私

この世には右と左がある。

と、体温計を外し、チョークを左手に持つ。黒板の数式の一部を消して、絵を描く。

先生

「鉛筆は右」「右は鉛筆を持つ方」です。

私の手が止まる。

先生

ひろしくん。君が左の方が使いやすいのはわかるわ。出来る事ならそのままにしてあげたい。けれどこの国の文化や慣習はそれを良しとはしない。それに横書き、特に中学に行って英語を勉強する様になるから右がいいわ。今ならまだ間に合う。私は君の為に言っているのよ。わかるよね? 「鉛筆は右」「右は鉛筆を持つ方」

右手で絵を書き始める。

私

……それには当てはまらない10人に1人の存在として生まれた私。

先生

楽しい?

私

思うように動かない手で描く絵が楽しいわけではない。この世には右と左がある……のではなく、右か左かがあるだけだ。

先生

何をごちゃごちゃ言っているの。単純明快な事をぐちゃぐちゃとこねまわして、複雑化して、自ら迷い道に進んで、悦に浸る。楽しい? 気持ちいい? 君のマスターベーションなんて誰も興味はないし、不快だわ。

私

(先生を睨む)

先生

さ、描き終えたら片づけて。

私

(立ち尽くす)

先生

描けないなら片付けなさい。

チョークを手放す私。

私

放っておいてくれ。鉛筆を持つ度、絵を描く度、時を書く度、こつちを見るのは止めてくれ!

と、描いた絵を消し、数式を見つめる。

私 答えはわかっていたんだ……。気が付けが人前で字を書くのが嫌だった。それは字が下手だからじゃない。

私 「あら左利き？」「あら左利き？」「あら左利き？」「あら？」

と、逃げ出そうとするがそこにテーブルが。箸を右手に持つ。

友人 あれ？お箸、右？ずっとそうだった？

私 お箸だけは……お前が左の方が使いやすいのはわかる。出来る事ならそのままにしてあげたいが、この国の文化や慣習はそれを良しとはしない。配膳も盛り付けもそう出来ている。大人になって何処で誰と食事しても恥ずかしくないように、今ならまだ間に合う。私はお前の為に言っているんだ。わかるな？「お箸は右」「右はお箸を持つ方」だ。

友人 お箸が直せるなら、鉛筆も直せるんじゃない？

私 ……。

友人 でも不思議だな。字書いている時は左ってすぐに気付くのかな。

私 ……。

学校のチャイム

私 それは確か小学校一年の授業参観。ノートを取る私のひそひそ声が届いた。「あら……」……その直後、先生に指された私は前に出て黒板に答えを書く事になった。授業が算数だったのか？国語だったのか？なんだったのかは思えていないが、私は黒板の前に立ち、後ろを振り返った。クラスメイトとその母親たちの視線。答えはわかっていた。でも嫌だった。私は……。

右手でチョークを持ち答えを書こうとするが、思う様に書けない。

先生 「ひろしくん、左手で書いていいのよ」

幾つもの笑い声が響く。

黒板に「10人に一人の存在」と書く。

私 僕は9人の側のフリをした。親に先生にまわりの大人たちに、クラスメイトに何度言われても鉛筆だけは左だったのに肝心な時に貫けずに、準備も覚悟もないまま、チョークを右手で持って……一人の側の自分を否定した。ひそひそ声は聞きたくなかった。左で書く度、右で食べる度、うっとうしかった。ウンザリだった。この世には右

か左かがあるだけ。そうじゃない。皆が右に行くなら私も行く。皆が左に行くなら私も行く。私は「多い方」に隠れることで「私」を消した。

と、「一人の存在」という文字を手で消す。その時、チョークが手から落ちる。それを拾おうとするが、どちらの手かで迷う。

私

中学、高校、社会に出るとそこには、食べるも書くも左でやる者がいた。マウスも包丁もギターも左でやる者がいた。驚いた。カッコイイと思った。憧れた。だから、私も箸を左に持った。が、動かなかった。指がつりそうだった……それでも相変わらず右手で字は書けなかった。鉛筆は左、箸は右、左投げ左打ち、パソコンのマウスは右でクリップングパスも出来る。包丁は基本左だがカツラムキは右でないと出来ない。ギターは右で、自慰行為も右だ。中途半端だ。うっとうしくてウンザリだ。隠れきる事も、貫く事も出来てやしない。なんの大した覚悟もないまま安直に、カッコイイと憧れ、聞きかじったもつともらしい事を口にして、手に取る。自分のしている事の意味を知らないまま、気付いた時には慌てふためく。死者8名、負傷者376名。その威力に最も驚き慌てたのは「狼」自身だ。(笑う)そこで身の程を知られば良かったものを……彼らは爆弾の威力を下げ、その後も10件のテロを起こした。この「連続企業爆破事件」はその2年前に起きた「あさま山荘事件」ほど後の世に語り継がれていない。私には、当時の人々が「狼」を恐れていたのか？呆れていたのか？笑っていたのか？関心をよせなかったのか？それはわからない。それでも、いまこうして振り返れば――

黒板を眺める。

私

馬鹿馬鹿しい。私の中途半端さ、彼らに責任はなく、ましてやそこに慰めはない。彼らが決行日を二転三転させたのも、私が18時間かかったのも……同じ日というだけで繋がりのあるのなら、内藤大助はどうだ？親の離婚、貧困、いじめ、それらに飲み込まれないで彼は極めたじゃないか。1974年8月30日生まれの元WBC世界フライ級王者――

先生

何をごちゃごちゃ言っているの。単純明快な事をぐちゃぐちゃとこねまわして、複雑化して、自ら迷い道に進んで、悦に浸る。楽しい？気持ちいい？そうでしょうね。マスターベーションが不快なんて笑い話にもならないものね。けれどそれにどんな価値があるの？君はずっと1人でこねくり回し続け、それを「演劇」と呼んでいるようだけど、いい加減に認めたら――

私

ああ。誰かを気持ち良くなんて出来ねえよ！救う事なんて尚更だ！
それどころか「私」一人も満足に昇天させられない。答えはずっと
わかっている。辞めりゃよかったんだよ、東京から逃げて来た時に。
死ねばよかったんだよ、東京で不覚悟を知った時――

先生

面白い。面白いわ。同情を引くのね。愛を乞うのね。甘っちょろい
にしゃぶりついて、簡単に幸福感を手に入れようとするのね。在り
来たりね。「鉛筆は右」「右は鉛筆を持つ方」って何度言っても一度
だって言う事を聞かなかつたのにね。面白いわ。片づけお願いね。

黒板を見つめる私。

私

終わってねえよ。

と、チョークを拾い「1974年・昭和49年8月30日午後3時38
分」と書く。

私

1974年・昭和49年8月30日午後3時38分、静岡県引佐郡
細江町気賀で3060グラムの赤子が生まれた。46年の時が経過
しようとしているが、一体それがなんだったのか？その「答え」は
未だわかってはいない。

スマホがメッセージの着信を知らせる。

それを見る私。

私

私が見つけるものではないのかも知れない。

と、黒板に「ありがとう」と書く。

FIN